

追憶・西関東の鉄道貨物輸送

～鉄道貨物研究家・渡辺一策氏のフィールドノートから～

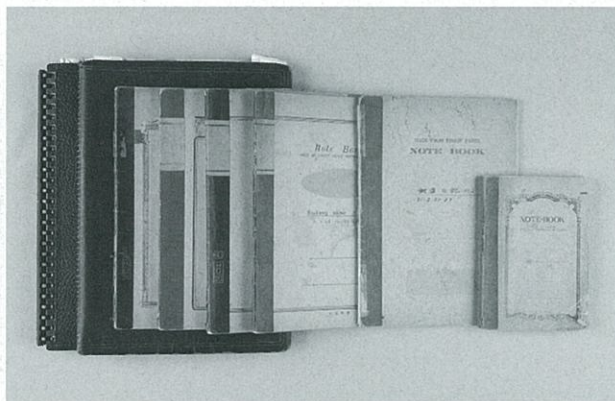
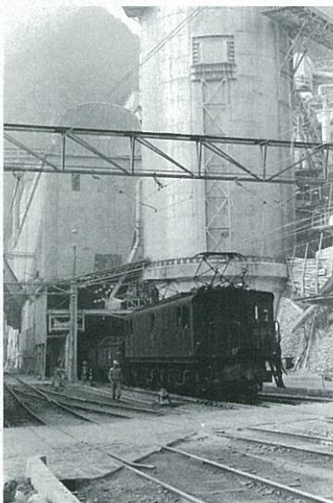
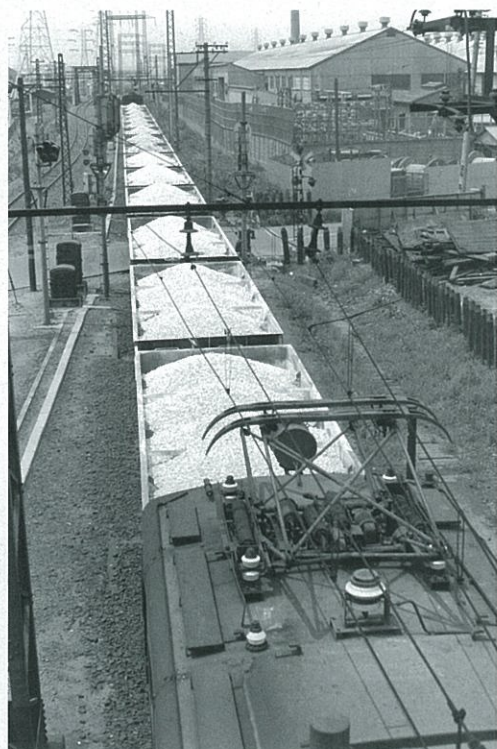
物流ワールドに魅せられて、いろいろな趣味を極める達人たちを紹介するシリーズ企画の第2弾。
今回は、日本の鉄道貨物愛好家の草分けの一人で、鉄道貨物輸送研究を趣味として長年続けてこられた渡辺一策氏とともに、高度経済成長期の西関東の資材輸送を中心とした鉄道貨物輸送を回顧します。



渡辺一策氏は、昭和40年(1965)頃から鉄道貨物輸送に関心を深められ、主に西関東地区*をフィールドとして各路線の調査活動を実施、また、1980年代後半以降は各鉄道雑誌への寄稿や単著の刊行など、貨物輸送に関する多くの著作を発表してこられました。日本の鉄道貨物愛好家の草分け的な存在の一人といえるでしょう。

本展では、こうした渡辺氏の長年にわたる活動の中から、とくに高度経済成長期からオイルショック後の時代にかけて行われた調査活動の成果に注目し、西関東の鉱石を中心とした資材輸送について紹介を行います。鉄道貨物全盛期だったともいえる高度経済成長期、なかでも西関東の鉱石輸送は、主に採掘された自前資源を輸送したところに特徴がありました。渡辺氏はこの点に興味を感じて調査活動を行い、詳細なフィールドノートと写真記録を残しています。これらの記録を通し、渡辺氏が目撃した昭和40年代から50年代にかけての西関東の資材輸送を復元し、往時の実態に迫ります。

*「西関東地区」について：本展で「西関東」と称している地域は、昭和44年(1969)、東京鉄道管理局から分割された東京北、東京南、東京西、の3管理局のうち、東京西局に属する地域を基準とし、国鉄のほか、地域内で貨車連絡輸送があった私鉄も含めています(ただし山手線の一部を除き、また一部の他局管内を含めています)。



左上より時計周りに：①青梅線を走る石灰石・生石灰専用列車 昭和40年(1965)9月5日 ②粘土の積み込み 五日市線・大久野駅構内 昭和40年11月20日 ③浜川崎駅に到着する石灰石列車 昭和41年8月1日 ④西武多摩川線・競艇場前駅の砂利積替え設備 昭和36年(1961)1月29日 ⑤渡辺一策氏のフィールドノート 昭和29年(1954)～昭和56年(1981)使用 ⑥青梅線・氷川駅(現・奥多摩駅)の水川貯鉱槽と石灰石列車 昭和40年6月2日 *⑤以外全て渡辺一策氏撮影

物流博物館へのアクセス

「Grand Prince Hotel Shinjoh」バス停
カトリック高輪教会
都営浅草線「高輪台駅」

物流博物館
ウイング高輪
「品川駅前 高輪口3番」バス停

Grand Prince Hotel Shinjoh
せんぼ東京高輪病院
シナガワグース

JR, 京浜急行 高輪口 品川駅 第一京浜

電車 ●品川駅(JR, 京浜急行)下車…徒歩7分
高輪台駅(都営浅草線)下車…徒歩7分
バス ●品川駅前高輪口(バス乗り場3番 都営バス 品93乗車(目黒駅方面行) Grand Prince Hotel Shinjoh前 下車…徒歩1分